

1年目

研究の1年目の学校研究の概要（取組み）

研究テーマ

自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成
～学び合いを生かした国語科の授業づくり～

1 研究テーマ設定の理由

学力調査等の結果から、説明や方法を問う記述式の問題に依然として弱い傾向にあることが分かった。また、誤答例から、文章内容を読み取る力や、問われていることを的確に把握して答える力にも課題が見られた。

そこで、指導者が教科の特質に応じた言語活動を明確にするとともに、「いしかわ学びの指針12カ条」を踏まえながら、根拠や筋道を明確に表現する力や学び合ったことを実践的に生かす力を高める学習活動の充実を図ることとした。1年目は、国語科を中心取り組み、自分の考えを説明する力を育成するために上記のような研究テーマを設定した。

2 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 大事な言葉を落とさずに説明できる子
- (3) 他の人の考えを比べながら、自分の考えを説明できる子

3 場面の設定

- (1) 場面や意図、条件に則し、記述の中の事実や意見をとらえ、さらに既習の学習や経験、例をあげながら自分の考えを述べる場面の設定
- (2) キーワードを見つける学習やキーワードを使って説明や報告、考えを述べる場面の設定
- (3) 多様な考えが出てくる学習活動を意図的に設定し、自分の考えの立場をはっきりさせたり、考えを変えた理由を説明したりする場面の設定

4 実践（取組）の成果

(1) 具体的な取組み及び取組み上の工夫・留意点

① 三角ロジックの手法を用いた説明

筋道を立てて説明するためには、自分が体験したこと、学んで蓄積してきた知識等から、何が関連しているのか、それは説明に必要か、それが最適なのかを判断し、相手に伝わるように表現しなければならない。これが出来るように、1年目は右のような三角ロジックの手法を用いた説明に取り組んだ。

② 発問の工夫

読みの思考を促す発問には、大きく分けて3種類あると考えている。

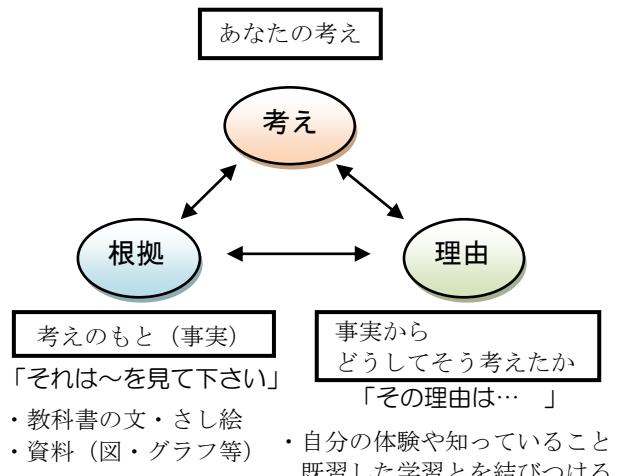
発問A：答えは、探せば文中にはっきりと示されているもの

発問B：答えは、文中にはっきりと示されていないが、文脈から推測したり、複数の読みを繋ぎ合わせたり、内容をまとめたりすることで見えてくるもの

発問C：絶対的な正解はなく、読み手の経験や知識を用いて、根拠を示しながら文章の内容や書きぶりについて自分の考えを述べたり検討したりするもの

【三角形で伝えよう】

「わたしは～だと思います。」



この中のCの発問をすることで、三角ロジックで伝える必要性が出てくると考えた。そこで、中心発間に「あなたは、どう考えますか。あなただったら、どうする。」という発問を入れ、児童が自分の考えを三角形で伝えられるようにした。

③ 「物語文・説明文」の系統表の作成

授業を行う際には、どの段階でどのような言語に関する知識や技能を身に付けさせるのか、つけたい力を明確にして、系統的に基礎的・基本的事項の定着を図らなければならない。

そこで、「単元を貫く言語活動」を明確に位置づけ、系統性を踏まえての単元全体を見通した授業構想を立てることができるように、国語科の「読むこと」に関する「物語文・説明文」の系統表を作成した。

※項目は、「ねらい」をはじめ、「5つの言語意識」「学ばせたいこと」「意識させるキーワード」「学習用語」「文章構成」「読書との関連」等である。

④ 使わせたい用語やキーワード・既習事項の掲示

根拠として使わせたい用語やキーワードはいつでも使えるように教室に掲示した。これらを児童が生かせるように「今使わせたい用語」は黒板横に掲示し、いつでも板書上に移動して活用できるようにした。

⑤ 学び合いが深まるための板書・ノート

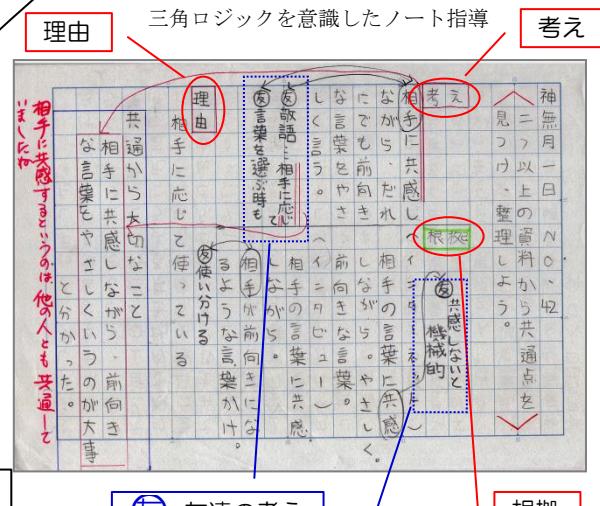
板書は、全学年共通に、課題を赤、まとめを青で囲み、キーワードはオレンジで書くようにした。まとめは、キーワードを入れて児童にまとめさせた。また、自分の考えと友だちの考えを比較関連付けができるよう、「ネームプレートの使用」や「共通点、相違点」が見える板書づくりに取組んだ。

ノートは、「考え方・根拠・理由」を明確に表せるように学年に応じた目標を決めて取組を行った。

物語文・説明文系統表

《用語・キーワード》

黒板横 今使わせたい用語 教室横 既習の用語



⑥ 学習の基盤づくりの充実

●スキルタイムの取組（13:50～14:00）

前学年までに学習した基礎的・基本的な学力（「書く力」「語彙力」「計算力」等）の向上を図る。

曜日	月	火	水	木	金
内容	視写タイム	言葉タイム	計算タイム	学級タイム	漢字タイム
ね ら い	早く視写する力の伸長	文法や語彙の使い方等の力の伸長	基礎的な計算力（速さ・正確さ）の伸長	学級の実態に応じ不足している基礎的・基本的な学力の伸長	漢字を書く・読む力の伸長
主 な 取 組 例	教材「うつしまるくん」を使用して力を伸ばす。	①教材「ことばのきまり」を使用して力を伸ばす。 ②辞書のひきかたの指導、練習 ③ローマ字の学習	前学年までの復習 ①過去のスキルタイム プリントの利用 「〇問テスト」 ②「すず漢字コンテスト」の過去問題	該当学年等の学習 ①都道府県名を覚える（県庁所在地も） ②石川県の市町を覚える ③詩の暗唱	①漢字の学習 ・練習 ②誤字が目立つ漢字の指導 ②すず漢字コンテストの過去問題

*11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取り組み月間とする。

● 「活用力タイム」の取組（13:50～14:10）

毎月 23 日(いしかわ読書の日)を含む週のスキルタイムを 20 分間にし、活用力を重視した学習を行う。

				23日	
4 6	国語 「活用力アップワーク」	国語 「活用力アップワーク」	算数 「活用力アップワーク」	学校読書の日 *ボランティアの方々 教師による読み聞かせ	算数 「活用力アップワーク」
1 3	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	算数 「さんすうの力」	*感想文を書く *班長や学年代表 による図書紹介	算数 「さんすうの力」

※ 上記の取組を基本とするが、児童の実態に応じて学習内容を工夫する。

(例) 筋道をたてた文の書き方の学習 事実(根拠)と理由(判断)、考え(意見)を踏まえた話し方の学習

ア 目指す児童を明確にするため、「学習を支える身に付けたい力」一覧表の作成。

イ よりより学習習慣・生活習慣を身に付けるために、「家庭学習の手引き」「バランスアップカード」による取組の実施。

ウ 読書活動推進のために、地域ボランティア員による読み聞かせや、毎月23日を含む週における読書活動の実施。

エ 家庭とのコミュニケーションを促進し、家庭と連携した「明日を担う子ども達の約束」の取組。

学習を支える身に付けたい力

家庭学習の手引き

明日を担う子ども達の約束

⑦ 学校研究の普及啓発への推進

- ・2回の公開授業の実施
- ・学校研究リーフレットを奥能登管内すべての小中学校に配付
- ・学校ホームページ上に研究内容・資料等の掲載
- ・学校研究の啓発に関するアンケートの実施（普及啓発の実態把握）

5 成果と課題

（1）子どもの姿としての成果と課題

（成果）

- ・「根拠」や「筋道」をはっきりと意識した思考や説明ができるようになった。
- ・国語でつけた説明する力が、他教科でも見られるようになってきた。
- ・論理的な学び合いと学習の深まりが見られるようになった。
- ・習得した知識を使っての発言ができるようになった。
- ・活用力をみる市販テストや評価問題の結果が良くなってきた。

（例）5年生活用力をみる市販テスト（エクストラテスト）の国語科の結果

	1学期	2学期	3学期
本校5年生	69点	76点	86点
正答期待値	78点	77点	80点

（課題）

- ・ねらいと個人の説明、学び合いとの時間のバランス
- ・三角ロジックを使う場面設定
- ・国語で身に付けた力の他教科への生かし方
- ・今、求められる学力の検証方法

（2）近隣校への学校研究啓発の成果と課題

（ア）学校研究啓発に関するアンケート結果

○実施時期 平成25年1月8日～17日

○アンケート依頼校 珠洲市内 小学校8校 中学校4校

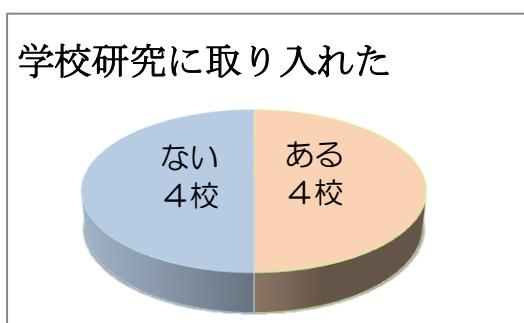
○アンケート回答者 校長2名 教頭2名 教務1名 研究主任 9名
合計14名より回答

注）校長、研究主任など2名から回答をいただいた学校があり、集計は回答を合わせて1校として、取り扱うこととする。

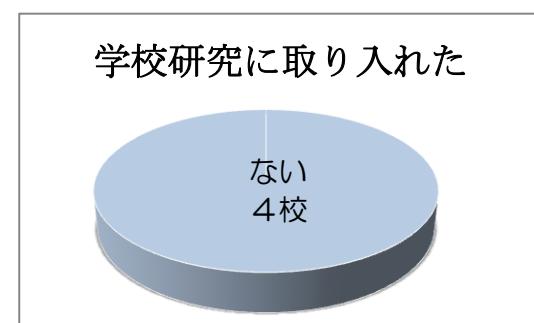
（内容）

- ① 飯田小学校の学校研究を参考にして、貴校の学校研究に取り入れたり、資料を作成したりしたものはありますか？

珠洲市小学校（8校）

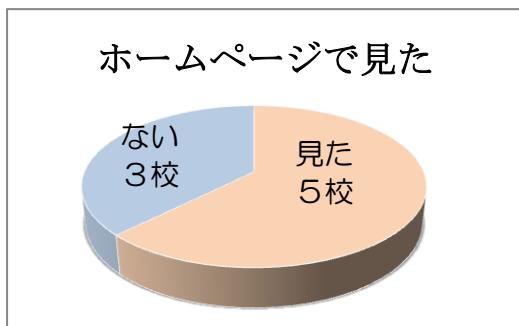


珠洲市中学校（4校）

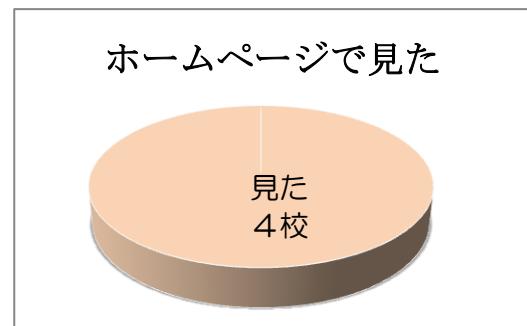


② 飯田小学校のホームページを開いて、研究内容を見たことがありますか？

珠洲市小学校（8校）



珠洲市中学校（4校）



③ 貴校の学校研究で参考になった資料がありますか。 ある ない

番号	研究内容／資料	小学校（8校）												中学校（4校）			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫				
1	第1回授業公開紀要																
2	第2回研究発表会リーフレット																
3	三角ロジック（三角形で伝えよう）…ノート指導・板書・学習用語																
4	基礎的・基本的な学力定着への取組（スキルタイム等）																
5	校内研修のすすめ方																
6	学習指導案																
7	国語科の「読むこと」の系統表（A3）																
8	教師が意識すること・指導上の留意点（国語科）（A4）																
9	学習を支える身につけたい力（A4）																
10	学習のてびき（A4）																
11	明日を担う子ども達の18の約束（A3）																
12	「いしかわ学びの指針12か条」と本校研究の関わりと「奥能登スタンダードの活用」について（A3）																
13	活用力をはかる「評価問題」																

本校で作成した資料等は、ホームページにすべて掲載し、いつでも見られるようにしている。

2年目に向けて、3月から公開授業までの学校研究の取組を紹介